

○議長（福田正男議員） 次に、中野美佳さん。

〔2番 中野美佳さん登壇〕

○2番（中野美佳さん） おはようございます。中野美佳です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

本日は、島田市の子育ての現状について質問をさせていただきます。

現在、私は生命保険会社で、新人生涯設計デザイナーの教育や指導をするトレーナーという仕事をさせていただいております。

そのため、若いお母さんにお会いする機会が多くあります。

実際、私のオフィスでも保育園に子どもさんを預けて仕事をしているというお母さんが数名いらっしゃいます。

子どもを育てながら働く女性、子どもを育てながら、今から働きたい女性が多い現在、社会復帰する予定であるが、保育園に空きがない、育児休暇が1年あるが、子どもの1歳の誕生日からの復帰となり、4月からでなく年度の途中からの入園が可能であるかわからない等、子育てに対する不安が多いことも事実のようです。

私も島田市で結婚、出産し、子どもを育てながら働いてきましたが、昔と今ではやはり環境も大きく変わりました。

安心して子どもを保育所に預け働くことができ、そして安心して子どもを迎えに行ける、そんな島田市であればうれしく思います。

そこで、質問いたします。

質問(1) 現在、島田市では待機児童は何人いるのでしょうか。

質問(2) 幼稚園から認定こども園に変わると、受け入れる年齢や預かる時間はどのように変わるのででしょうか。

質問(3) 認定こども園になるのはいつから、どの幼稚園なのでしょう。

質問(4) 兄弟で同じ園ではなく、受け入れがで

きないために、違う園に通うという話も聞きますが、実際の把握ができているのでしょうか。

壇上での質問は以上です。よろしくお願いいたします。

〔2番 中野美佳さん発言席へ移動〕

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 中野さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。保育園等の待機児童数ですが、平成29年4月1日現在、20人です。内訳は、地区別では旧島田地区が12人、六合地区が4人、初倉地区が4人となっております。年齢別では0歳児が2人、1歳児が13人、2歳児が5人となっております。

なお、十分送迎できる範囲に入園可能施設があるにもかかわらず、特定施設のみ希望している場合など、国の定義から除外される児童も含んだ待機児童数は85人です。いわゆる潜在的な待機児童と言われるものでございます。その内訳は、地区別では旧島田地区が39人、六合地区が21人、初倉地区が19人、金谷地区が6人となっております。年齢別では0歳児が17人、1歳児が33人、2歳児が15人、3歳児が16人、4歳児が3人、5歳児が1人となっております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。現状、幼稚園では基本的に3歳から受け入れています。保育時間については、午前9時ごろから午後2時ごろまでが多く、預かり保育を利用した場合は午後6時ごろまでが多くなっております。認定こども園の場合、幼稚園部に通園する場合は、ほぼ幼稚園と同様の受け入れ、保育時間となります。一方、保育園部では制度上は0歳からでも受け入れができます。また、預かる時間についても、朝は午前7時から、夜は午後7時までになり、さらに土曜保育もあるため、多様な対応が可能となります。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいた

します。現在、市内には初倉地区にみどり認定こども園があります。また、平成30年4月に島田学園付属幼稚園、島田中央幼稚園、五和幼稚園が認定こども園化する予定となっており、現在、改築及び改修を進めております。

なお、認定こども園化により保育園部の定員は194人の増となります。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。平成29年7月1日現在、別々の保育園、認定こども園等に通園している世帯は、5世帯あります。この5世帯のうち多くは、兄弟同時に入園を希望していましたが、希望園に空きがなかったため、同じ園に入れず、近場から入園できる園を紹介して、別々の園に入園しております。このように兄弟同時に保育園の申し込みをした際に、特に0歳から2歳は定員数が少ないこともあり、希望園のクラスに空きがない場合などは、兄弟別々の保育園を紹介することがあります。また、既に兄弟が在園している場合は、できる限り兄弟が違う保育園に通園することがないように利用調整を行います。保護者の就労時間などにより保育の必要性の優先度が低くなり、希望園に入園できない場合は、別の園を紹介することもございます。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（福田正男議員） 中野さん。

○2番（中野美佳さん） 御答弁ありがとうございます。現在の待機児童と今後増える定員数についても、具体的に数字で示していただきよくわかりました。ありがとうございます。

それでは、再度質問させていただきます。先ほどの答弁で、特に0歳から2歳は定員が少ないこと、幾つかの幼稚園が認定こども園になり定員が増えることを伺いました。確かに私の周りでも0

歳児から2歳児の子供が保育園に入りづらいとよく聞きます。認定こども園になるとどういったメリットがあるのでしょうか。また、定員が増える歳児別の内訳はどのようになっているのでしょうか、お願いいたします。

○議長（福田正男議員） 孕石こども未来部長。

○こども未来部長（孕石 晃） それでは、御質問にお答えさせていただきます。認定こども園になることのメリットについてですが、例えば御両親が働く必要が生じた場合や病気などによりまして自分で子どもを見ることができなくなった場合、そのような場合につきましては、ほかの場所の他園に移ることはなくて、そのまま同じ園の保育園部に移ることが通常はできるようになります。親・子どもの負担が少なく済むことが考えられます。また、逆に仕事をやめた場合には、本来は保育の必要性がなくなるため、保育園を退園して幼稚園を探すこととなりますが、認定こども園であれば、通常の場合ですが、大抵は保育園部から幼稚園部に移るだけで済むようになります。

0歳児から2歳児の子どもが保育園に入りづらいということにつきましては、0歳児から2歳児の保育には1人の保育士が保育できる人数が少ないため、どうしても定員が少なくなり、入りづらくなっている現状はあります。そのため、10月開所を目指しまして向谷地区に現在、0歳から2歳を主に預かる島田ゆりかご保育所を整備しているところでございます。また、平成30年4月からの幼稚園の認定こども園化を促してきたところでございます。認定こども園化によりまして増加する194人の内訳を申しますと、0歳児6人、1歳児22人、2歳児35人、3歳児43人、4歳児44人、5歳児44人の定員増となっております。

なお、島田ゆりかご保育所を10月に開園するのですが、そこにつきましては0歳から2歳の定員については0歳児12人、1歳児24人、2歳児24人となっております。

○議長（福田正男議員） 中野さん。

○2番（中野美佳さん） 認定こども園になると、入園の申込方法や保育料の支払いの方法はどうなるのでしょうか、お願いいたします。

○議長（福田正男議員） 孕石こども未来部長。

○こども未来部長（孕石 晃） 幼稚園の場合ですと、希望園に直接申し込みをしていただいておりますが、認定こども園の場合は、保育園部につきましては市へ申し込みをしていただきます。9月から申込書類を窓口やホームページを通じて配布しますので、園ではなくて市へ申し込みをしていただければと思います。幼稚園部につきましては、今までと同様に通常どおり園へ申し込みをしていただくようになります。

保育料のお支払いにつきまして申し上げますと、認定こども園になっても、幼稚園部、保育園部ともに直接園に支払っていただくこととなります。

○議長（福田正男議員） 中野さん。

○2番（中野美佳さん） もう1点ですが、保育園への入園申し込みについて、翌年度の一斉申し込みを知らずに申し込みが遅れてしまい、保育園に入れなかったということも聞きます。申込時期の周知方法はどのように行っているのでしょうか、お願いいたします。

○議長（福田正男議員） 孕石こども未来部長。

○こども未来部長（孕石 晃） 翌年度の一斉申し込みにつきましては、例年9月から10月ころに行っております。詳しい日程につきましては、広報しまだ8月号の特集ページ、そのほかに島田市のホームページ、島田市子育て応援サイトしまいくで周知をしております。なお、今年度の一斉申し込みにつきましては、受け付けは9月13日から10月13日までを予定しております。今年度からまた新たに周知方法といたしまして、今年の1月からしまいくのラインページを開設いたしました。それで配信をしていきますので、ぜひお友達登録をしていただければと思います。ちなみに現在で

すが、7月26日現在で919人の方に登録をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 中野さん、いろいろと御質問をいただきありがとうございます。今、子育てもしたい、だけれども、仕事も続けたいという女性は、出産する時期まで、4月に産んだほうがいいとか、あるいは年内に産まないで保育園の申し込みが間に合わないとか、出産する時期までも考えなければならないような状況が今の日本にはあります。そうした中、島田市はまず待機児童ゼロを目指すのだということで、現在、待機児童20名ですが、今年の秋の向谷のゆりかご保育所で72名、そして来年は春には190名以上の定員が増えるということで、潜在的な待機児童もこれでなくなってくるというふうに考えております。しかしながら、やはりいろいろな改善をしているのですが、その改善の周知徹底といえますか、必要な情報が必要なお母様方のところに届いていないのではないかとこの反省を今回の質問で私は感じました。秋に申し込んでいただいた方が、例えば保育園に入れますという通知が来るまでに、いつまで待たばいいのだと。いつごろになったら通知をいただけるのか、それがわからないと、働きに行けるのか行けないのか、来年の4月からのことも決まりませんというようなお話をいただきます。今年度、島田市は秋口に申し込みをした後、来年の春までこういった形で審査を重ね、いつでも皆様のところにその入れるか入れないかの通知、そしてまた二次募集等の通知が行くかというようなロードマップのようなものを作成をして、お申し込みいただいた折にそれも同時に配布をしております。また、それ以外にもちょっとした御質問でも構いません。ぜひ子育て応援課もそうですが、保育支援課のほうに、保育園は保育支援課のほうでございまして、いろいろなお話をいただければと思っ

ております。子育て応援課と保育支援課、隣同士で連携を持ってやっていますので、どちらに御連絡いただいても、情報はしっかりつながっていくかと思えます。

私は子育てのときに、この保育園の待機児童のこともとても大事に思っておりますが、やはり子育て支援、あるいは教育というものに対して、島田市の理念が必要だと思っております。その私が持つ島田市の理念というのは、常に子どもを真ん中に置いて考えるということでございます。それは働くお母さんたちに、こうすればもっと、例えば一例を挙げれば、真夜中まで預かれば、それは真夜中まで働くことができるようになるかもしれません。しかし、子どもの成長には、やはりふさわしい就寝時間と、8時、9時には子どもは眠ったほうが成長ホルモンも出ていいのですよね。真夜中まで子どもが起きている状況は、子どもにとっていい状況とは思いません。そんなふうには、あらゆる施策を子どもにとってどうなのかということ、これを柱として、私は子育て支援、そしてまた島田市の教育というものを考えております。ですから、センセーショナルな施策を打つことは少ないかもしれませんが、しかし、ここで暮らすお母さんたちが安心して島田市で子育てしてよかった。そして子どもを産み、育てるなら、どうしても島田市がいいと選んでいただけるようなまちになるように、今後、待機児童の問題だけではなく、さまざまな子育て分野、そして教育の分野に力を尽くしてまいりたいと思えます。

もう一つ、島田市が私が力を入れているのは、親育てであります。子どもを真ん中にと同時に、親を育てる、親が親になるということがこれからの日本にとってとても大事なことだと思っておりますので、子どもを真ん中にと同時に、親をしっかりと育てていく、そういった施策もあわせてやっておりますので、さまざまな講座を実践しております。ぜひそちらのほう

にも目を向けていただければと思います。

今回御質問いただき、ありがとうございます。

○議長（福田正男議員） 中野さん。

○2番（中野美佳さん） ありがとうございます。

島田市の子育ての取り組みについて理解することができました。定員数が増えれば保育士の人数も必要になるので、雇用の面でもプラスの効果があると思えます。先日の広報しまだ7月号の市政羅針盤の市長のお言葉の中でも、子育て世代に選ばれるまち島田を目指してとテーマを掲げ取り組んでくださっていることを非常にうれしく思いました。整備が進み、定員が増え、預けやすくなっていることはとてもよくわかりますが、その内容や申込方法、時期については、お母さんたちに十分伝わり切れていない部分もあるのではないかと感じます。例えば出生の届出などさまざまな手続の際に、島田市ではこのような取り組みで安心して子どもさんを預け、働くことが可能であることを伝えていただければ、もっとたくさんのお母さんたちに島田市のよさが伝わると思えます。そういった周知についても今後期待したいと思えます。

以上で質問を終わります。ありがとうございます。